

第3回

上島町学校の在り方検討委員会 (第2期)



令和7年7月27日(日) 10:15～
弓削地域交流センター(消防2階)大ホール

第3回 上島町学校の在り方検討委員会 次第

日 時 令和7年7月27日（日） 午前10時15分から

場 所 弓削地域交流センター 大ホール（消防庁舎2階）

1 開 会

2 教育長挨拶

3 議 事

- (1) 統合の形態について
- (2) 統合時期について
- (3) 統合場所について
- (4) 今後の検討委員会の予定

4 閉 会

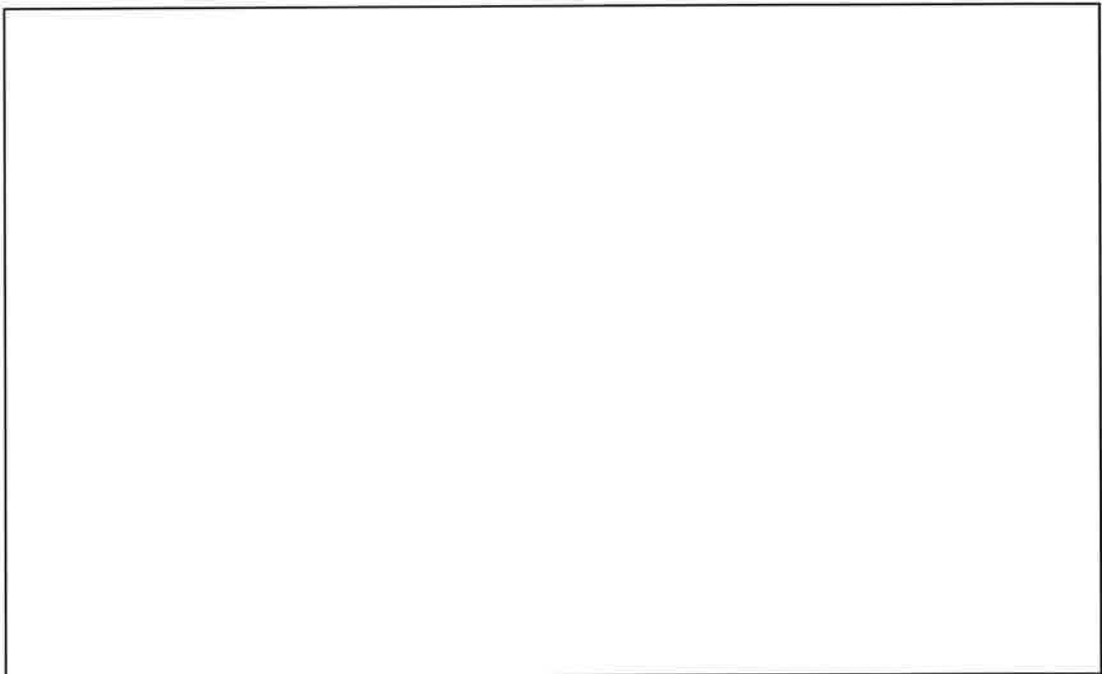
1 統合の形態について

(1) 第2回の発言より

- ・ 「5年後10年後を考えると一気に小中学校各1校体制にすべきではないか。」
- ・ 「児童数の著しい減少傾向から3校を一度に統合すべきではないか。」
- ・ 「小学校3校統合、中学校も統合に向けて動いていただきたい。」
- ・ 「現状や人数の推移を考えると、統合がいいのは概念的にわかっているが、デメリットについて詰められていない。」
- ・ 「現状通りを希望するが過半数だったが、低学年ほど統合を希望しているという意見が増加傾向であった。」
- ・ 「児童数の減少を考えると、学校統合に反対ではない。中学校の部活動の幅も広がるのではないか。」
- ・ 「各島で離島留学制度を導入すれば、現状のままで人数が増えるのではないか。」
- ・ 「地域のことを考え、各島に学校や保育所等の施設を1つずつ置くのはどうか。」
- ・ 「今回の話し合いでは、統合という方向でおおむね進んでいる。」

(2) 意見交換を通して

- 小学校1校、中学校1校への統合を目指す
 - ・ 5年後、10年後の児童生徒数を考慮
 - ・ 児童生徒の教育環境を最優先に考える
 - ・ 地域への配慮も必要ではないか
 - ・ 中学校部活動の選択肢が広がる可能性、部活動選択時の生徒の負担軽減
- 各島での離島留学制度導入は今回は見送り、統合後の児童生徒数の推移により再考する。
 - ・ 各校に寄宿所を設営することへの費用対効果
 - ・ 募集による不安定さが気掛かり



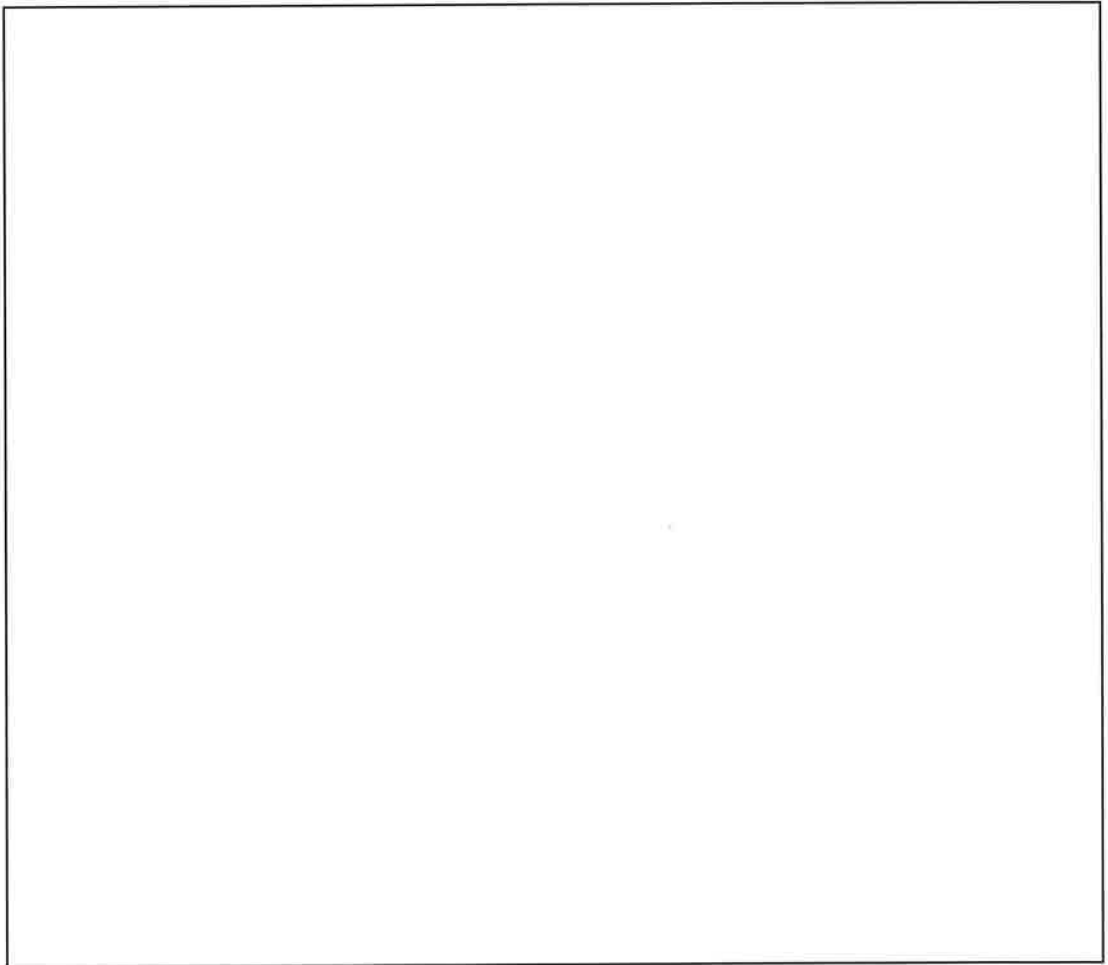
2 統合時期について

(1) 第2回の発言より

- ・ 「生名保育所と生名小学校の統合を連携してほしい。」
- ・ 「複式解消に2年はかかるということなので、令和10年度の統合を希望する。」
- ・ 「統合期日を出して進めるべきではないか。」

(2) 意見交換を通して

- 令和10年度小学校、令和11年度中学校の統合を目指す
 - ・ 生名保育所保護者会、生名小学校PTAからの要望（小学校）
 - ・ 小学校統合との連携
 - ・ 岩城小学校の耐用年数を考慮



3 統合場所について

(1) 第2回の発言より

- ・「役場、教育委員会として、できること、なぜできないかということを出さずに検討しても、予算の関係でできなということになってしまう。」
- ・「改修や予算、補助についても考える必要がある。」
- ・「岩城小を更新した場合、耐用年数はどうなるのか。」
- ・「移動距離について、バス通学では何時に家を出ることになるのか。」
- ・「バス通学や学童、送迎など、細かいところも決めてから統合してほしい。」
- ・「子供の負担を考えて地域を選定したり、通学方法を考えたりするのがこの検討委員会である。」
- ・「防災や避難施設も踏まえる必要がある。」

(2) 意見交換を通して

○ 既存施設を活用する

- ・ 既存校舎等の利用 → 直ちには改修の必要なし
- ・ 中長期的には長寿命化の必要あり
← 学校施設環境改善交付金（統合改修 国 1/2）
- ・ 「上島町個別施設計画」（R3.3）によると経過年数が 51 年以上のものは大規模改修を行わない → 岩城小が該当
- ・ 統合パターンは次の 4 パターンがある。

①弓削小ー弓削中、②弓削小ー岩城中、③生名小ー弓削中、④生名小ー岩城中

形 態	
小中別設 ②③④	○ 設置場所が分散することにより、各島の地域感情がある程度緩和される。
小中併設 ①	○ 小中学校合同行事が持ちやすい（運動会等） ○ 県教育委員会が進めている、中学校教諭による小学校での授業（兼務）がしやすい（R7 小学校体育科で一部実施）

- ・ 防災、避難施設について → 前回資料（追加）参照
- ・ スクールバスの運行について → 前回資料（追加）参照
→ 現有スクールバス（29 人乗りマイクロバス）3 台
不足分は、町有バス等で補充予定。（要 公営事業課との協議）

第3回上島町学校の在り方検討委員会資料（第2回資料に加筆）

令和7年7月27日

上島町立小中学校 学校適正配置について

(1) 小学校

	形 態	方 法	メリット	デメリット
①	1校に 統合	弓削小を使用	- 施設規模(運動場、体育館)に余裕がある - 教室数に余裕がある - オーブンスペースがある - 魚島小との交流が容易 ・(弓削港→弓削小約1km 徒歩約10分) ・高い場所に立地 ・避難所(体育館)：地震・津波・台風高潮・豪雨土砂 ・一時避難場所(駐車場)：地震・津波	- 岩城方面からの移動距離が長くなる ・(岩城小→弓削小約15km 約20分、生名小→弓削小約6km 約10分)
②	1校に 統合	生名小を使用	- オーブンスペースがある ・岩城、弓削の中間地点 ・校舎が一番新しい	- 運動場の狭さ ・(弓削小9,907㎡、生名小2,380㎡、岩城小7,220㎡) ・魚島小との交流が難しい ・(弓削港→生名小約5.2km 約10分) ・低い場所に立地 ・避難所(体育館)：地震・台風高潮・豪雨土砂 ・一時避難場所(グラウンド)：地震
③	1校に 統合	岩城小を使用	施設規模(運動場)に余裕がある	- 標準的耐用年数60年を令和9年度に迎える ・個別施設計画により、長寿命化は不適切 ・弓削方面からの移動距離が長くなる ・(弓削小→岩城小約15km 約20分、生名小→岩城小約10km 約15分) ・魚島小との交流が難しい(弓削港→岩城小約14km) ・低い場所に立地 ・避難所(体育館)：地震・台風高潮・豪雨土砂 ・一時避難場所(グラウンド)：地震 へリ離発着場
④	2校に 統合	- 弓削小 ・生名小(生小＋岩小)	- 岩城方面からの移動距離が緩和される ・統合の変化が最小限に抑えられる(弓小変化なし) ・同規模校が2校できる ・弓削小は高い場所に立地	・R11年度以降、学校適正化(統廃合)を再考する必要がある ・生名小は低い場所に立地
⑤	2校に 統合	- 弓削小 ・岩城小(生小＋岩小)	- 統合の変化が最小限に抑えられる(岩小変化なし) ・同規模校が2校できる ・弓削小は高い場所に立地	・岩城小が標準的耐用年数60年を令和9年度に迎える ・個別施設計画により、長寿命化は不適切 ・R11年度以降、学校適正化(統廃合)を再考する必要がある ・岩城小は低い場所に立地
⑥	2校に 統合	- 弓削小(弓小＋生小) ・岩城小	- 統合の変化が最小限に抑えられる(岩小変化なし) ・弓削小は高い場所に立地	・岩城小が標準的耐用年数60年を令和9年度に迎える ・個別施設計画により、長寿命化は不適切 ・R11年度以降、学校適正化(統廃合)を再考する必要がある ・岩城小は低い場所に立地
⑦	2校に 統合	- 生名小(弓小＋生小) ・岩城小	統合の変化が最小限に抑えられる(岩小変化なし)	・岩城小が標準的耐用年数60年を令和9年度に迎える ・個別施設計画により、長寿命化は不適切 ・R11年度以降、学校適正化(統廃合)を再考する必要がある ・生名小、岩城小とも低い場所に立地

(2) 中学校

	形 態	方 法	メリット	デメリット
㊸	1校に 統合	弓削中を使用	- 校舎が新しく、バリアフリー化(エレベーター) ・魚島中との交流が容易 ・(弓削港→弓削小約1km 徒歩約10分) ・デジタルサポートルーム設置 ・一時避難場所(弓削小駐車場) ・へリ離発着場所：グラウンド	- 岩城方面からの移動距離が長くなる ・(岩城中→弓削中約10.5km 約18分) ・低い場所に立地 ・避難所(町民体育館)：地震・豪雨土砂
㊹	1校に 統合	岩城中を使用	- 教室数に余裕がある ・高い場所に立地 ・避難所(開発総合センター)：地震・津波・台風高潮 ・一時避難場所(グラウンド)：地震・津波	- 弓削方面からの移動距離が長くなる ・(弓削中→岩城中約10.5km 約18分) ・魚島中との交流が難しい ・(弓削港→岩城中約9.5km 約20分) ・周辺道路が狭く、災害時の避難・援助が困難

(3) 魚島小中学校 ・地元生がいなくなっても、離島留学制度を継続予定

[メモ]

